人 カーキ色から白い銃剣道に

田沢昌平さん 六十六歳 黒鳥二

銃剣道をご存知だろうか。戦前の男性なら軍事教練や軍隊で教えられたものである。近年はスポーツとして中高齢者を中心に各地で愛好者が団体を作ったり、大会が開かれたりしている。

黒埼町にも銃剣道連盟黒埼支部があり、支部長の田沢昌平さんは新潟県銃剣道界の第一人者といってもいい人である。この十年ほどの間に町や郡はもちろん、県大会では四度優勝している。

「年も年ですから勝敗にはこだわりません。健康、つまり体力と精神力を維持したいと思う」と田沢さん。精神力とは心だという。「銃剣道は心身を練磨して人間形成に寄付することが目的です。元は武道ですから、礼節を重んじます」。

黒埼支部の会員は現在四十七人。毎週水曜日の夜、総合体育館武道場で練習している。練習には小学生も顔をみせる。「去年から子供たちにも教え始めたんです。三十代四十代の人もいますけど、わたしらの年代がほとんどですから」。お孫さんの洋治君（中一）も参加している。「けいこのとき、おじいちゃんはとっても厳しい」という。

田沢さんが銃剣道を始めたのは十六の時。「青年学校の軍事教練で教えられました。時代が時代でした」。郡大会などで活躍し昭和十五年から十八年まで朝鮮に出征。終戦は大本営（東京）で迎えた。三段だった。「銃剣道はその名のとおり、銃の先に短剣を付けて敵を倒す技です。わたしは幸いそういう白兵戦には一度も遭遇しませんでした。よかったと思います」。

その後昭和五十三年に黒埼支部が結成されるまで銃剣道から遠去かった。「三十年ぶりに木銃を持ったら体力の哀えを痛感しました。やめようかなと考えましたが、軍隊に比べれば楽だと思い続けました。やればできると思いました」。五十五年には国体に出場した。昨年は六段になった。

「昔と違い強制ではないですから自分のペースで練習しています。今はスポーツですから、自分のためにけいこしています」。試合では戦前はカーキ色の軍服を着用したが今は白いスラックスをはく。「もちろん白の方がいいです。カーキ色はごめんです」。

（五十嵐広報担当記）

銃剣道六段の田沢さん。「修業にあたっては真剣をもってし、心技両面に練磨を重ね、礼節を重んずる」と唱える。好きな言葉は「正直」。民生委員も務められている＝写真は自宅で＝

ほんの一冊

ウホッホ探険隊
（福武文庫）
干刈あがた

題名だけではコメディのようですが、離婚をテーマにした純文学の中篇です。

未知の問題「離婚」にいどんでいく一家四人のウホッホ探険隊。「君」と小学生の子供に呼びかける母親の語り口は、親子というより友人のようです。もはや夫と妻ではなくなっても、母と子、父と子の親子関係を断ち切らない家族の形を創造していく試みは、肩肘を張ったものではなく、不思議なやさしさに満ちています。父親不在の中で、思いやるが故に屈折しそうになるお互いの心を、深刻にならずに、冷静に受けとめ、さらりと表現しています。

〈人の動き〉

2月末日現在（前月比）		前年同月比
人口	22,575（+19）	〔+395〕
男	11,105（+11）	〔+216〕
女	11,470（+8）	〔+179〕
世帯	5,883（+4）	〔+130〕

2月1日～末日

出生	17	転入	51
婚姻	5	転出	39
死亡	9		

広報で募集しています

★カットやイラストを描きたい人
★四コママンガを描きたい人
★インタビュアーやレポーターをしてみたい人
★簡単な英訳ができる人
★編集に興味を持っている人

どうぞ、お気軽に連絡ください。また、お知り合いを紹介してください。上手下手は問いません。広報紙づくりに皆さんのお力をお貸しください。薄謝ですがお礼致します。また、楽しい話題や頑張っている人もご紹介ください。

▼連絡先…役場企画開発課広報係
☎377－3101（内線46、52）

訂正

広報三月号九ページの「白鳥」の記事に誤りがありましたので次のように訂正しおわびします。二十九行目の「西の西の」を「西の」に、三十四行目の「滞在はあと少し」を「滞在はあと少し」に。

編集室

新年度が始まった。広報係は広報の編集のほかに町勢要覧の作成が本年度の大きな仕事である。要覧のタイトルは「町は生きている」にしようかと思っている。そして今までにも増して皆様のご協力を得たい。何かあればぜひご連絡を。また、町では新しい町章を制作する予定である。近年、企業ではCI（コーポレート・アイデンティティ）の導入にやっきである。CIとはイメージの統一的表現のことだが、ようするに「黒埼町はどんな町ですか」と問われたとき「こんな町ですよ」という〝こんな〟を決めるものだ。要覧や町章はCIの第一弾と考えている。

昭和六三年四月一日発行（毎月一日発行）
六八号 発行／黒埼町役場 〒950-21 新潟県西蒲原郡黒埼町大字野一六四一
電話／〇二五二（三八）三〇〇一 編集／企画開発課（担当：広報統計係） 印刷／三盛舘株式会社 経費一部一〇〇円